

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2006 年～2009 年

課題番号：18592382

研究課題名 (和文)

造血幹細胞移植を主体的に受けるための患者支援プログラムの臨床導入と評価

研究課題名 (英文)

The clinical application and evaluation of the patient support program to blood stem cell transplant for the subject

研究代表者

森 一恵 (MORI KAZUE)

大阪府立大学 看護学部 准教授

研究者番号 10210113

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学：7502：臨床看護学

キーワード：造血幹細胞移植、患者支援プログラム、看護学、癌、移植・再生医療、患者教育

## 1. 研究計画の概要

造血幹細胞移植を決定した患者が、移植の決定から実施に至る期間を安定した心理・社会的状態で主体的に移植を受けるよう過ごせるために系統的な患者支援プログラムを臨床で実施、評価するものである。その具体的目標は、以下のとおりである。(1) 患者支援プログラムを適用し、適用群と非適用群を比較して患者支援プログラムの有効性を評価する。(2) プログラムの臨床における実用性を評価する。

研究方法および内容は、移植の認知に関する評価について半構成的面接を行い、内容分析を行う。また、日本語版 Profile of Moods States、日本語版 Mental Adjustment Cancer Scale、日本語版 Rosenberg 自尊感情尺度の測定用具を用いて介入前、介入直後、介入終了後 4 週間の 3 時点で評価する。非適用群は適用群と同じ測定用具を用いて同様の時期に測定し、得られたデータは、適用群と非適用群で反復測定二元配置分散分析を用いて分析を行う。

## 2. 研究の進捗状況

2006 年度は、造血幹細胞移植を受ける患者に看護師が提供している情報の内容、身体的、心理・社会的側面への援助の内容と方法を明らかにするために内容分析を行った。その結果、無菌室に収容中の患者の「セルフケアの必要性」、移植後の精神・心理的支援のための「神経内科の受診」、GVHD 予防のための「皮膚乾燥のケア」などの移植前に必要な情

報提供項目が抽出された。また、看護師は、患者の疼痛緩和の方法、移植に関する意思決定に関する情報提供に困難を感じていた。これらの結果をもとに 2007 年度は患者教育のための教材 (パンフレット、DVD) 開発を行った。また、これと平行して 2006～2007 年に、研究協力施設で看護支援プログラム導入のための情報提供および組織の構築のために学習会を 1 回/1～2 ヶ月に行った。

2007 年度より患者支援プログラムを施行する施設において、非介入群のデータ収集を行った。その結果、非介入群では移植が近づくにつれて POMS の下位項目の活気の低下、疲労感の増加が有意に変化していた。また活気が低下している群では移植を外発的動機づけによって選択している発言がみられた。

1 施設の調査では調査内容の偏りがみられる可能性があり、対象者数が限られるため 2008 年度より新たな施設を加えて非適用群の調査を開始した。

適用群については、実施する施設でプログラムの進め方について 3～4 回の学習会と演習を行い介入方法に差がないように配慮し、適用群の対象者と施行者に参加について感想・評価を得ながら進めているところである。

## 3. 現在までの達成度

達成度：③やや遅れている

理由：本研究は対象者を「移植の説明を受けた 16 歳以上 55 歳以下の造血器腫瘍患者で研究の同意を得られた患者で、非適用群の対象者は、通常の看護ケアを受けている者」とし

ているため、移植適用の患者がプログラム施行中に体調の変化で最後まで参加できない場合や、移植対象者が来院しないことがあり、順調にデータ収集できない状況である。このため施設も増やしたが、病院の規模などの条件が同様の施設を選択したので、対象者の来院時期にばらつきができ、データ収集がやや遅れている状況である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

データ収集時期が予定よりも遅れることは当初より想定して調査期間にゆとりを持った計画にしていた。今後、2009年10月末頃までに計画していた対象者数のデータ収集ができると考えられる。

今回、対象者不足の問題については、2008年度当初より施設を増やして既に対処している。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

①森一恵、三角葉子、福井真由子、湯浅美保子、他：造血幹細胞移植患者に看護師が提供している看護援助と課題、大阪府立大学看護学部紀要、14(1)、1-7、2008

②森一恵：造血幹細胞移植を受ける患者の内発的動機づけによる自己決定を支援するための看護介入プログラムの開発、日本がん看護学会誌、22(1)、55-64、2008.

[学会発表] (計 4 件)

①森一恵、三角葉子、小島操子：造血幹細胞移植前の患者の移植の受け止めによる気分の変化、第23回日本がん看護学会学術集会、2009.2.7-8、沖縄.

②三角葉子、福井真由子、森一恵：造血幹細胞移植患者に提供している看護援助における看護師の苦悩、第30回日本造血幹細胞移植学会、2008. 2.29-3.1、大阪

③福井真由子、三角葉子、森一恵：造血幹細胞移植前の患者の心理変化と看護援助の課題、第30回日本造血幹細胞移植学会、2008. 2.29-3.1、大阪

④森一恵、小島操子：造血幹細胞移植患者に提供している看護援助と課題、第22回日本がん看護学会学術集会、2008.2.9-10、名古屋.